



にいがた

購読申し込みや
情報提供は
お近くのNOSAIへ

NOSAI下越
☎0254・33・3901
NOSAI新潟中央
☎025・282・9292
NOSAIさど
☎0259・63・4121
NOSAI中越
☎0258・36・8022
NOSAI魚沼
☎025・792・7077
NOSAI上越
☎025・525・1130
NOSAI新潟
(県農業共済組合連合会)
〒951-8133
新潟市中央区川岸町
3-21-3
☎025・266・4141(代表)
FAX025・266・4169

集落に活気を再び

わかとち未来会議 小千谷市若柵集落

小千谷市若柵集落にある「わかとち未来会議(細金剛代表 63歳、会員28人)」は2006年2月、新潟県中越大地震後の復興と地域おこしを目的に設立された。「集落の存続を」との強い気持ちから、農家民宿やグリーンツーリズムの受け入れを行う他、しめ縄作りや餅の販売にも取り組んでいる。



小千谷市中心部から南へ約10キロに位置する若柵集落。かつて同集落には約70戸、300人ほどの住人がいたが、新潟県中越大地震後は43戸、170人ほどにまで激減した。

▲グリーンツーリズムで田植え体験を開催

「地震後、『地域のお年寄りの元気がなくなり、なげやりな感じがする』との声を聞き、何とかしなければならぬ」との思いで、当時は必死でした」と、細金代表は振り返る。

地域の存続、復興を進めるため、復興支援にきてくれたいたボランティアの大学生と、同集落の協力を得て、わかとち未来会議を発足させた。同会議では、地域資源を生かしたコミュニティビジネスとして、農山漁村などで農林漁業等の体験や地域の自然、文化にふれ、地元の人々との交流を楽しむグリーンツーリズムの受け入れや、農家民宿「おこの木」の運営などを行っている。



農家民宿「おこの木」の前メンバー

農家民宿・農業体験で人呼び込む



販売に力を入れたお蔵暮セット

【新潟】「天然蜂蜜のおいしさをもっと知ってほしいです」と話すのは、新潟市西蒲区で養蜂を営む草野竜也さん(29)。以前は東京で不動産関係の仕事をしていて、養蜂を営んでいた祖父の仕事に興味を持ったことがきっかけで地元に戻ってきた。

同市の養蜂家の下で研修後、2010年に地元の岩室

天然蜂蜜(下写真も)を手にPRする草野さん

「地震後、『地域のお年寄りの元気がなくなり、なげやりな感じがする』との声を聞き、何とかしなければならぬ」との思いで、当時は必死でした」と、細金代表は振り返る。

地域の存続、復興を進めるため、復興支援にきてくれたいたボランティアの大学生と、同集落の協力を得て、わかとち未来会議を発足させた。同会議では、地域資源を生かしたコミュニティビジネスとして、農山漁村などで農林漁業等の体験や地域の自然、文化にふれ、地元の人々との交流を楽しむグリーンツーリズムの受け入れや、農家民宿「おこの木」の運営などを行っている。

蜂蜜のおいしさ 多くの人に届けたい

【新潟】「天然蜂蜜のおいしさをもっと知ってほしいです」と話すのは、新潟市西蒲区で養蜂を営む草野竜也さん(29)。以前は東京で不動産関係の仕事をしていて、養蜂を営んでいた祖父の仕事に興味を持ったことがきっかけで地元に戻ってきた。

同市の養蜂家の下で研修後、2010年に地元の岩室



草野さんは、花によっても色や味、粘度が違ってくるので、他の花の蜜が混ざらないよう、花の開花に合わせて準備します。

「いろいろな花から蜂蜜を採取してみたいですね。天然蜂蜜の知名度を上げ、多くの人に手に取ってもらいたいです」と張り切る。

(池端量美代)

天然蜂蜜(下写真も)を手にPRする草野さん

民宿は、築160年の古民家を改装してオープン。地元で採れた山菜と野菜が中心の田舎料理を提供し、「懐かしさ、気持ちがほっとする」と好評で、リピーターも多い。

また近年は、しめ縄や餅などの加工品にも力を入れており、通常の白餅に加え、ヨモギや雑穀、古代米を混ぜ込んだ餅も販売している。

今冬は新たに、みそ造りと

漬物加工にも取り組んだ。今後は野菜、乾物などの直売にも力を入れていく予定だ。

細金代表は「魅力あふれる集落をつくることで、若者がちが地域に定着し、さらに外部からも移住者が増えてくれるといい。そのために、これから人と人とのつながりを大事にしていきたいです」と力強く話す。

▽問い合わせ先わかとち未来会議事務局 ☎0258・822・1410、農家民宿「おこの木」☎0258・866・7908(小幡正志)

渡邊 治さん

佐渡市新穂潟上 75歳

妻と写真を撮りたかった

農ワイド

「写真で綴る自分史を作りたい」と話すのは、佐渡市新穂潟上の渡邊治さん(75)。現在、水稻64坪を作付けしている。

今までの、軍士フィルム



「季節の移り変わりの風景を撮影するのが楽しい」と渡邊さん

フォトコンテストで銅賞、県展では6回も入選。写真を撮り通して、交友関係が広がったという。

10年前に養蜂の仕事をやめたことで、自由な時間が増えたという渡邊さん。妻と同伴で国内外への撮影旅行を楽しんでいる。

これまでの最高の思い出は、カナダのイエローナイフオーロラを見に行ったことだ。「天気が良かったので、運良く見ることができて、いい思い出となった。写真に残すこともできた」と話す渡邊さん。「これから妻と旅行に出かけ、写真を撮りたい」と笑顔を見せる。(菊池沙絵子)

乾燥後に処理 安定生産に期待

◇糸魚川市◇



「葉かき機」の試作機で作業する関係者(糸魚川農業普及指導センター提供)

同機は生産者、ヨモギ集荷業者、市内鉄工所、関係機関などが協力し合い、試行錯誤の末に開発。通常、ヨモギを採取する際に葉かきを行い乾燥するが、完成した葉かき機は、茎に葉を付けたまま乾燥し、約20本もまとめて処理ができる優れたものだ。

糸魚川市は、お灸の原料である「もぐさ」の産地で、国内シェアの8割を占めている。

糸魚川農業普及指導センターでは、関係機関と連携し、農家の所得確保および耕作放棄地解消のため、「よもぎの乾燥後に処理 安定生産に期待」を掲げ、ヨモギ集荷業者、市内鉄工所、関係機関などが協力し合い、試行錯誤の末に開発。通常、ヨモギを採取する際に葉かきを行い乾燥するが、完成した葉かき機は、茎に葉を付けたまま乾燥し、約20本もまとめて処理ができる優れたものだ。

糸魚川市は、お灸の原料である「もぐさ」の産地で、国内シェアの8割を占めている。

南蒲センターが完成 損害防止活動や 損害評価の拠点

NOSAI中越



完成した南蒲センター

【三条】NOSAI中越では先ごろ、昨年9月から建設していた南蒲センターが完成し、竣工式が執り行われた。同センターは建物の老朽化に伴い、三条市塚野目から同市善久寺(旧栄町)に新築した。

新センターは土地面積約2200平方メートル、延べ床面積約360平方メートルの鉄骨一部二階建ての施設で、無人ヘリコプターやバックホーの格納庫のほか、水路などの実測設備や会議室を備えている。

さらに敷地内にはバックホーの練習場を設けた。現在、組合所有のバックホーは、用排水路の整備や畦畔の復旧などで稼働している。

同NOSAIの永井隆事業第1部長は「地域の皆さんと共に損害防止活動や損害評価の拠点として活用し、地域農業に貢献できるよう努めていきたい」と話す。(笹川正志)

健康重視の商品を提供

【新潟】「健康重視の商品を提供したい」と思いから、妊娠中の女性に欠かせない葉酸というビタミンを通常の2.5倍含んだ「葉酸たまご」と、子供の成長に必要なカルシウムの吸収を助けるビタミンDを通常の5倍含んだ「ビタミンDたまご」のオリジナル卵を提供している。また、この卵を使用したスイーツも取りそろえており、中でも「太陽のプリン」は人気メニューの一つ。

お店にようこそ



「ぜひ食べてくださいね」とPRする中野店長

新潟市中央区清五郎のビッグスワン近くに、2015年6月、たまごスイーツの店「中条たまご直売店」がオープンした。

「卵だけの加工品の直売店をやってみたくて思ってたことがきっかけです」と話すのは、有限会社中条たまごの米田幸彦取締役社長。6次産業化事業で国の認定を受けた事例の中で、卵を使用した店は県内で初めてだ。

米田社長は「少しでも良い物を作りたい」との思いを追求した結果、開店が予定より1カ月遅

広告